

普及活動情勢報告（令和7年4月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

優良系統ユズの新植、改植を目指して ～短刺系ユズ苗木の生産と出荷（いの町農業公社）～



いの町吾北地域では、ユズの生産力向上を目指して、高知県試選抜6号、同7号ユズの苗木を生産し、地域内への普及を図っています。これまでに、農業改良普及課は母樹園管理から苗木生産までの栽培指針を作成し、技術指導にあたってきました。

4月8日には、令和5年9月に接ぎ木した苗木の出荷が始まり、農家の方には定植時の枝の切り返しなど重要事項を説明しながら手渡しました。生産者は「そんなに短く切るんだね」と理解した様子でした。

農業改良普及課は、更なる優良苗木の生産拡大と普及に向けて、公社や柚子部会とともに取り組んでいきます。

大規模経営体から学ぶ ～南国地区ピーマン施設の視察～



4月11日、土佐市ピーマン部会員8人が南国地区の法人が経営するピーマンの施設を視察し、養液栽培システムや環境制御機器を導入した大規模な施設での栽培方法を学びました。

同行した普及指導員が機器等について補足的に説明することで、日頃の栽培管理方法や、夏場の高温対策技術等、様々な質問が出されました。先進地の視察を行うことで、規模拡大への意欲を高めることができました。

農業改良普及課は、今後もJA等関係機関と連携して産地の規模拡大や環境制御技術の活用に向けて支援します。

新規就農者の健全な経営のために ～資金繰り表の作成～



4月9日及び4月14日、農業改良普及課は、いの町の新規就農者の資金繰り表作成を支援しました。

専門家による助言のもと、規模拡大に必要なトラクター等の機械・施設の導入時期や予定金額を聞き取り、昨年度の毎月の収支を確認しながら、当面5年間の資金繰り表が作成されました。

農業改良普及課は今後、関係機関とともに、さらに経営計画の作成を促し、経営の安定に向けた支援をしていきます。

地域を担う組織を目指して
～沖田集落営農組合定例会～



3月28日、沖田集落営農組合の定例会が開催され、水稻の移植までのスケジュール等について検討がなされました。

農業改良普及課は、検討が円滑に進むよう、ほ場の地図を示しながら、効果的な作業に向けて助言を行いました。

組合員からは「組織が設立して初めての栽培となるため、引き続き集まって確認を行おう」、「定例会以外でもミーティングを行おう」といった意見が聞かれ、活動に意欲的な様子でした。

農業改良普及課は、組織での初年度の栽培が無事に行えるように引き続き支援していきます。